

フィンランド 障害者施設 視察報告

1. 視察の目的

「施設解体」のほぼ完了したといわれるフィンランド・ヘルシンキ市の障がい者グループホームの住まい方、支援方法について事例を見る。

2. 視察日程・視察先

2015年10月22日（木）

- ① イソニートウ通グループホーム
- ② テューネラ グループホーム
- ③ コルピネン社

2015年10月23日（金）

- ④ リュヒュトゥウ
- ⑤ ラスティランカッリオ グループホーム

3. 視察者

株式会社ゆう建築設計事務所 河井美希 岩崎直子
視察コーディネーター ヒルトウネン久美子さん

ヘルシンキ市の障がい者を取り巻く状況

- ・ヘルシンキ市の人口は約61万人（2014年2月）、知的障害者は約2000人住んでいる。2008年の法改正ですべての人をG Hに移行する方針が打ち出された。
- ・フィンランドでは、社会福祉と保険のサービスはほとんど公的に賄われており、今回の視察先は、ヘルシンキ市が建設・運営している、もしくはアソシエーションにヘルシンキ市がサービス提供を委託している。
- ・障がい者の区分・区別は、サービスを受ける場合に行っていない。必要なサービス判断するのは自治体（市）の職員が行う。
（医師・看護師・ホームヘルパー・ソーシャルワーカーなどと相談）
- ・障がい者施設で働くスタッフは、主に看護師・身辺介護士。身辺介護士は準看程度の医療行為が可能。働くスタッフへは、市から給与が支給される。
- ・P A（パーソナル・アシスタント）制度はあり、プロとしての養成を受けた者が行う。ただし、1ヶ月に20時間程度が最大。外出支援などに利用。

① イソニートウ通グループホーム

【用途・建物概要】

2013年開設。

重度心身障がい児・障がい者の
郊外型GH。

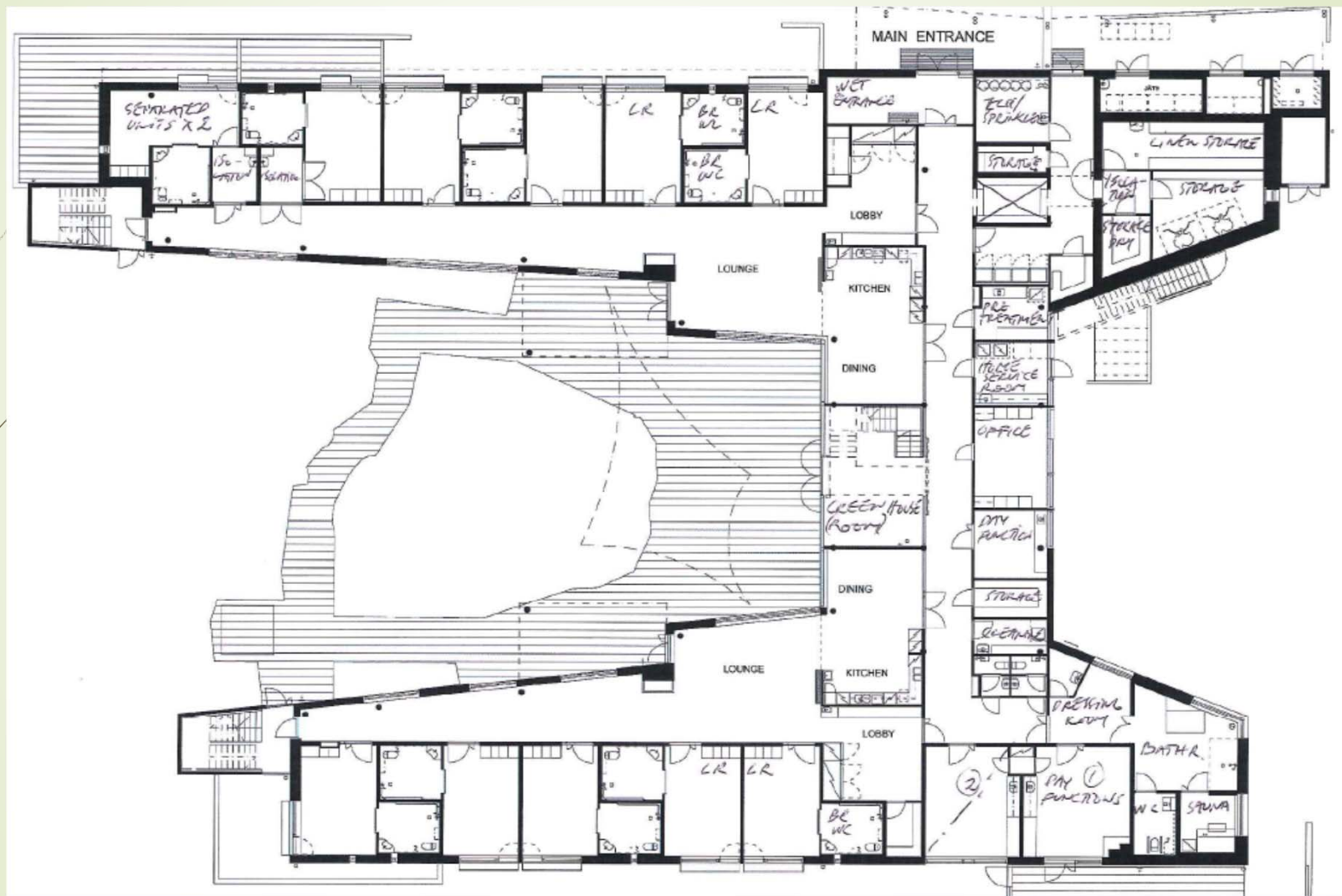
定員22名（児童6+成人16）

4ユニットで構成される鉄骨造
2階建の建物。

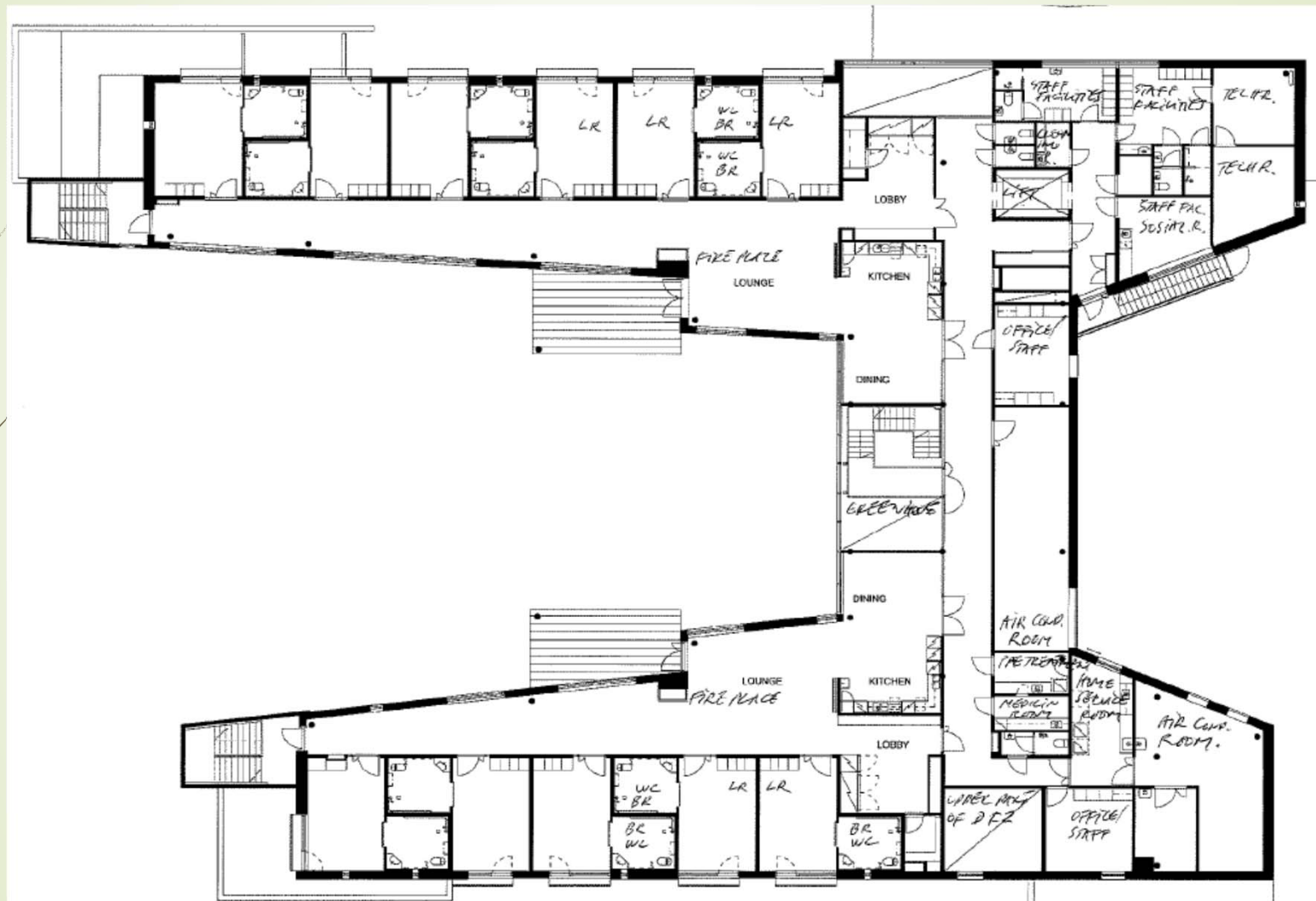
建設費 約12億円。



【イソニートウGH 1階平面図】



【イソニートウGH 2階平面図】



【イソニートウGH 外観】



【イソニートウGH 共用スペース】



【イソニートウGH 障がい児6名のユニット】



【イソニートウGH 障がい児6名の個室】



②テューネラ グループホーム



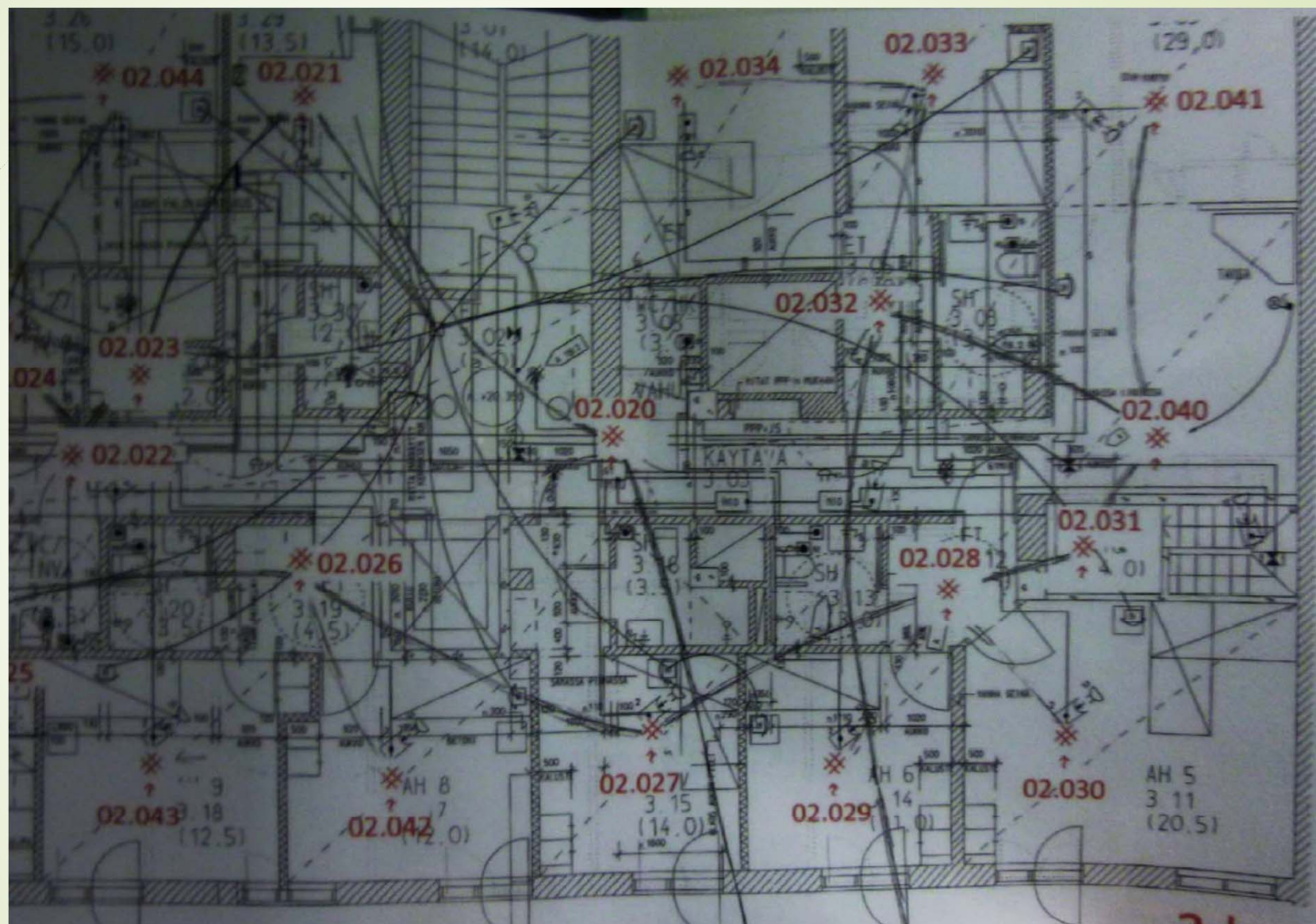
【用途・建物概要】

2004年にリノベされたヘルシンキ市営住宅の2フロア利用型GH。

1階に4人、3階に9人居住。1階にアクティビティステーション（デイケア）。

周辺は学校・公園・アパートなど一般の街区。

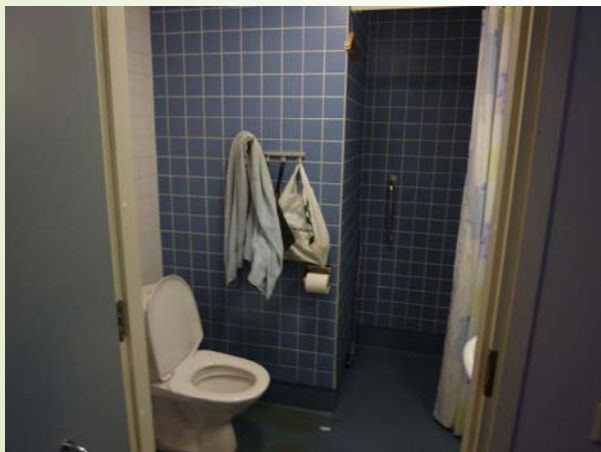
【チューネラGH
基準階平面図】



【チューネラGH 食堂・リビング（3階）】



【チューネラGH 個室】



【チューネラGH B1階 デイケア（日中活動の場）】



④リュヒュトゥウ

【用途・建物概要】

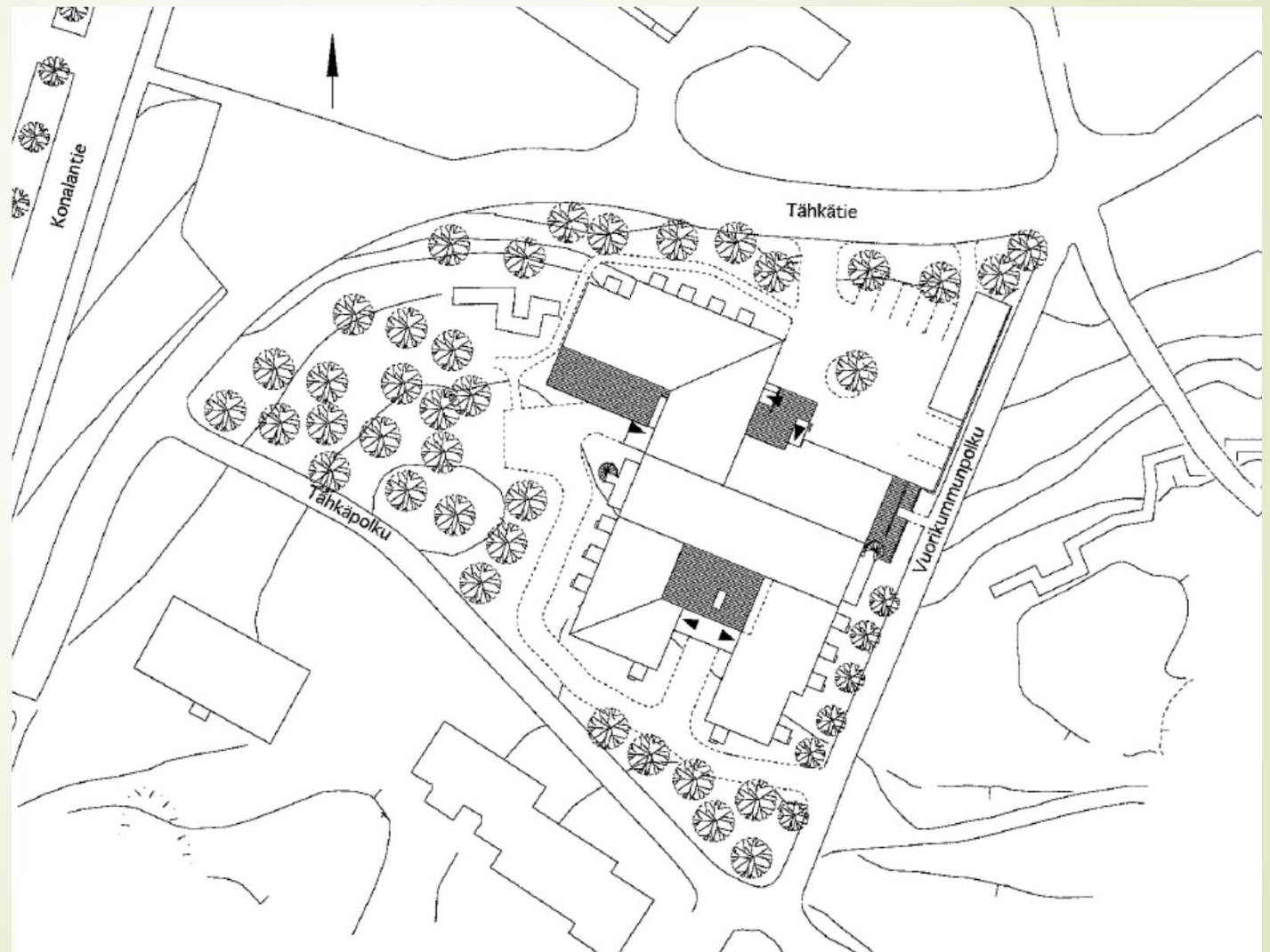
2004年に移転新築。住宅+職業訓練+デイクティビティを提供。

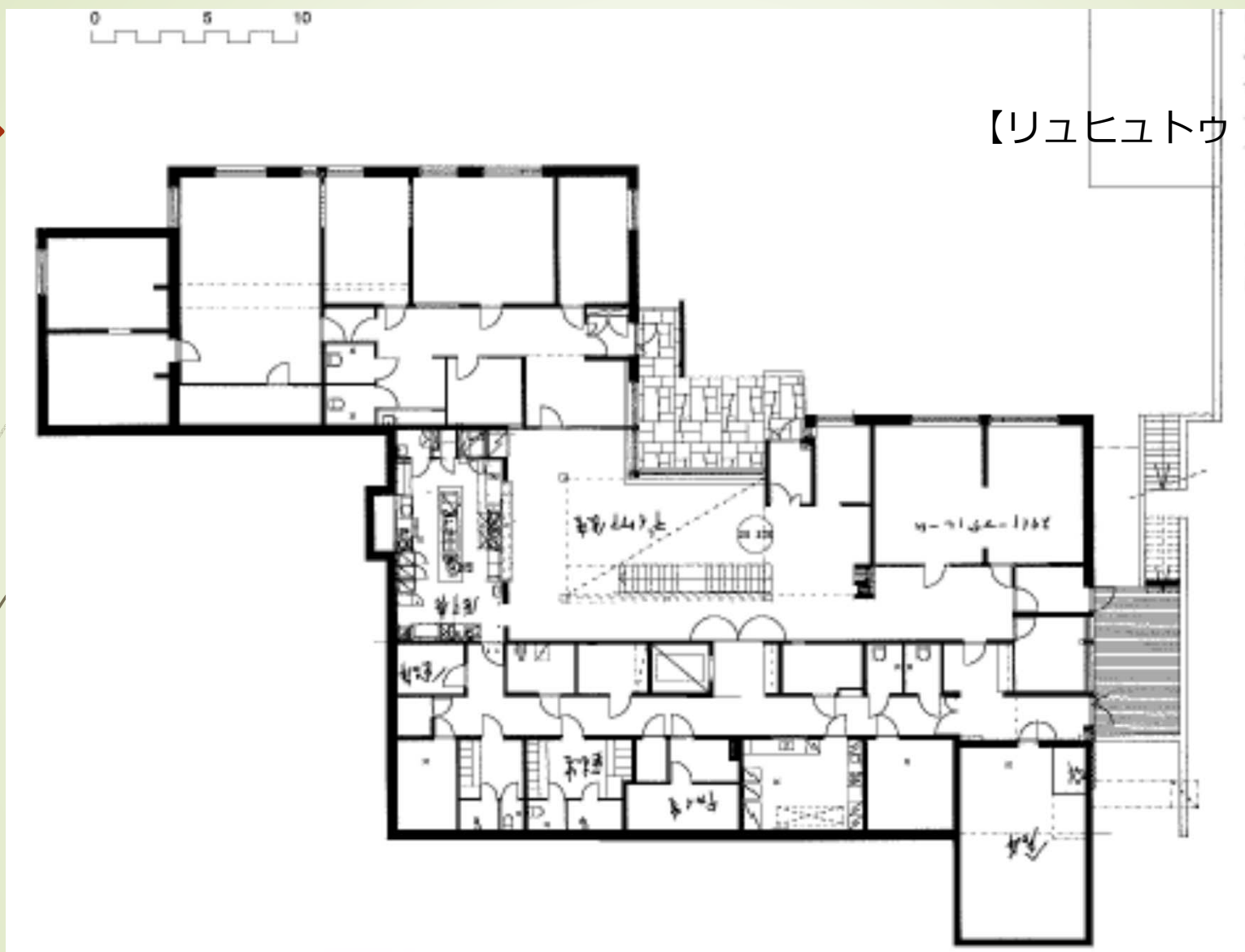
A・B・Cの3つのユニットからなる郊外型GH。

R C造 3階建（敷地内レベル差利用）



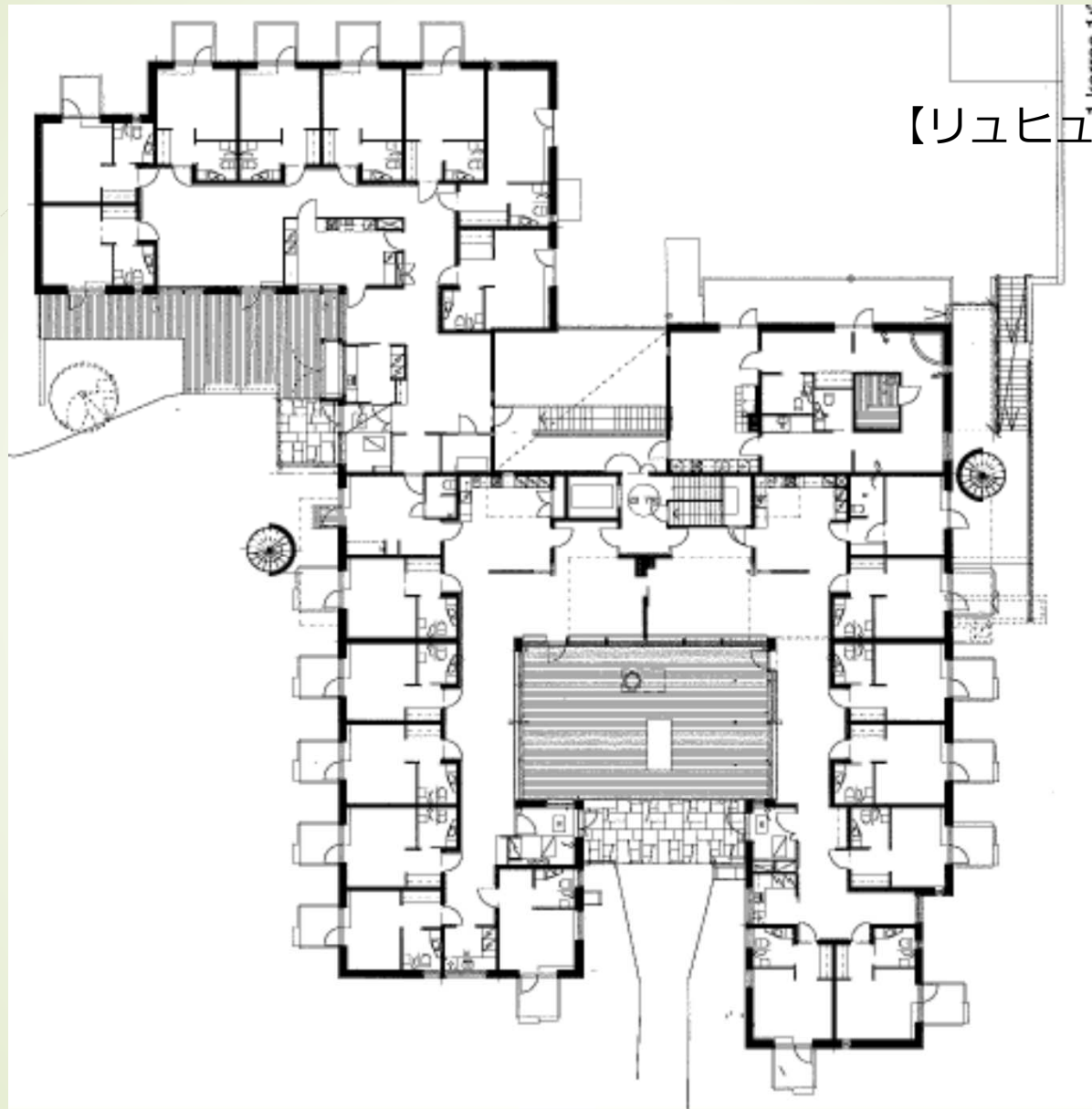
【リュビュトゥウ 配置図】



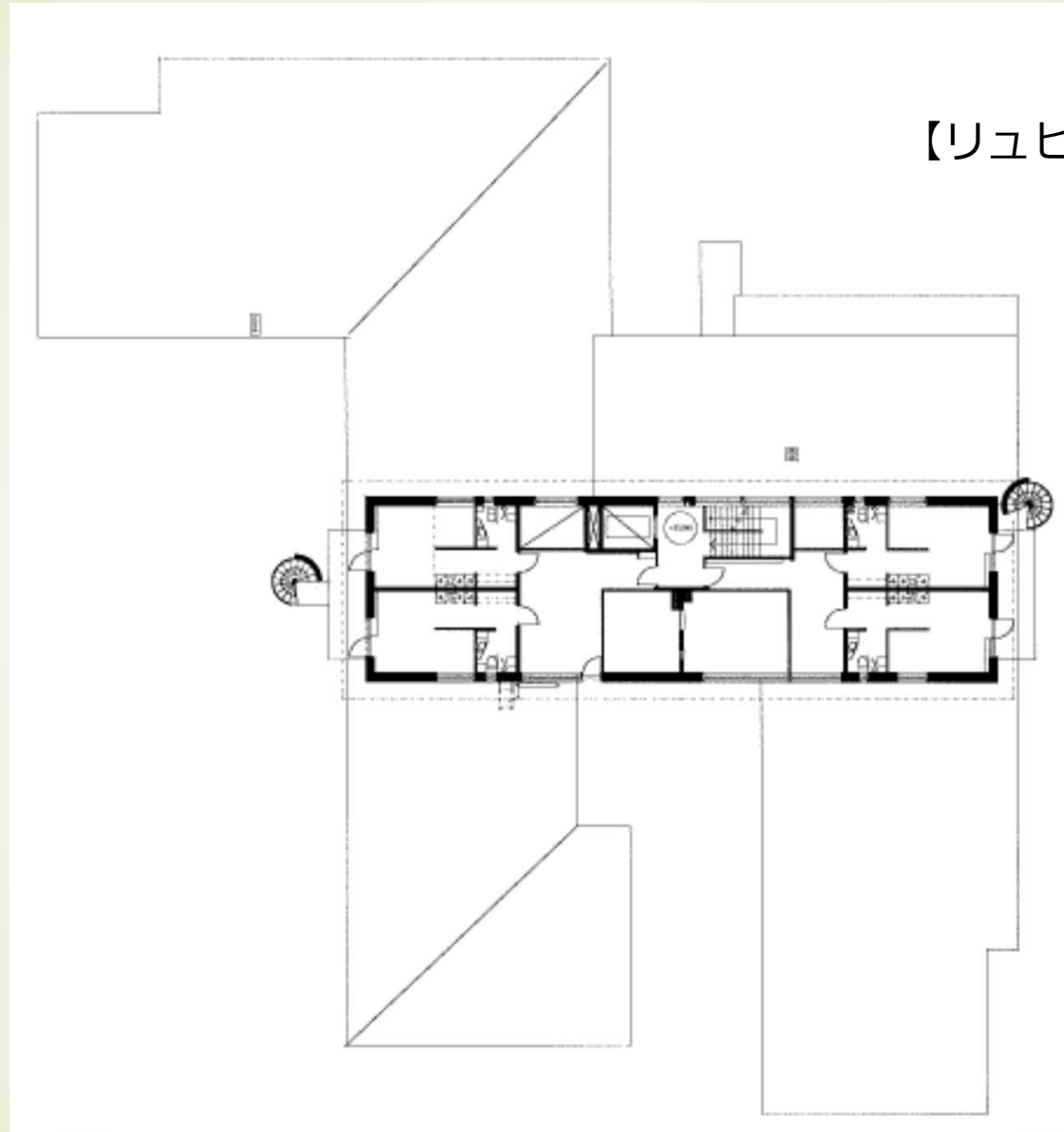


【リュビュトウ 1 階平面図】

【リュビュトゥ 2階平面図】



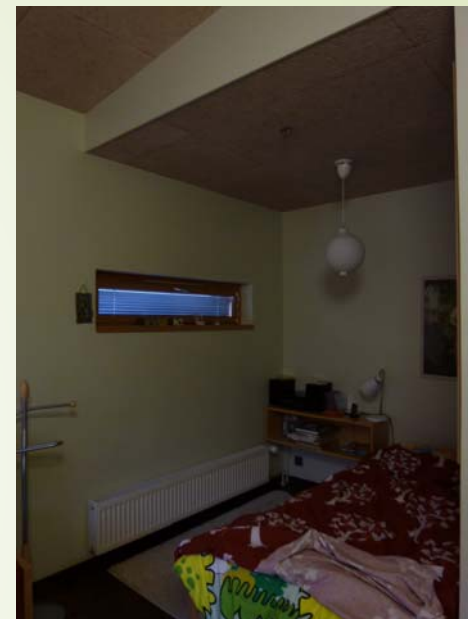
【リュヒュトゥウ 3階平面図】



【リュヒュトゥウ 居住ユニットB（2階）】



【リュヒュトゥウ 居住ユニットB 個室（3階）】





【リュヒュトゥウ 居住ユニット 共用部（2階）】

【リュヒュトゥウ デイケアスペース】



【リュヒュトウ デイクアスペース】

[illegible]

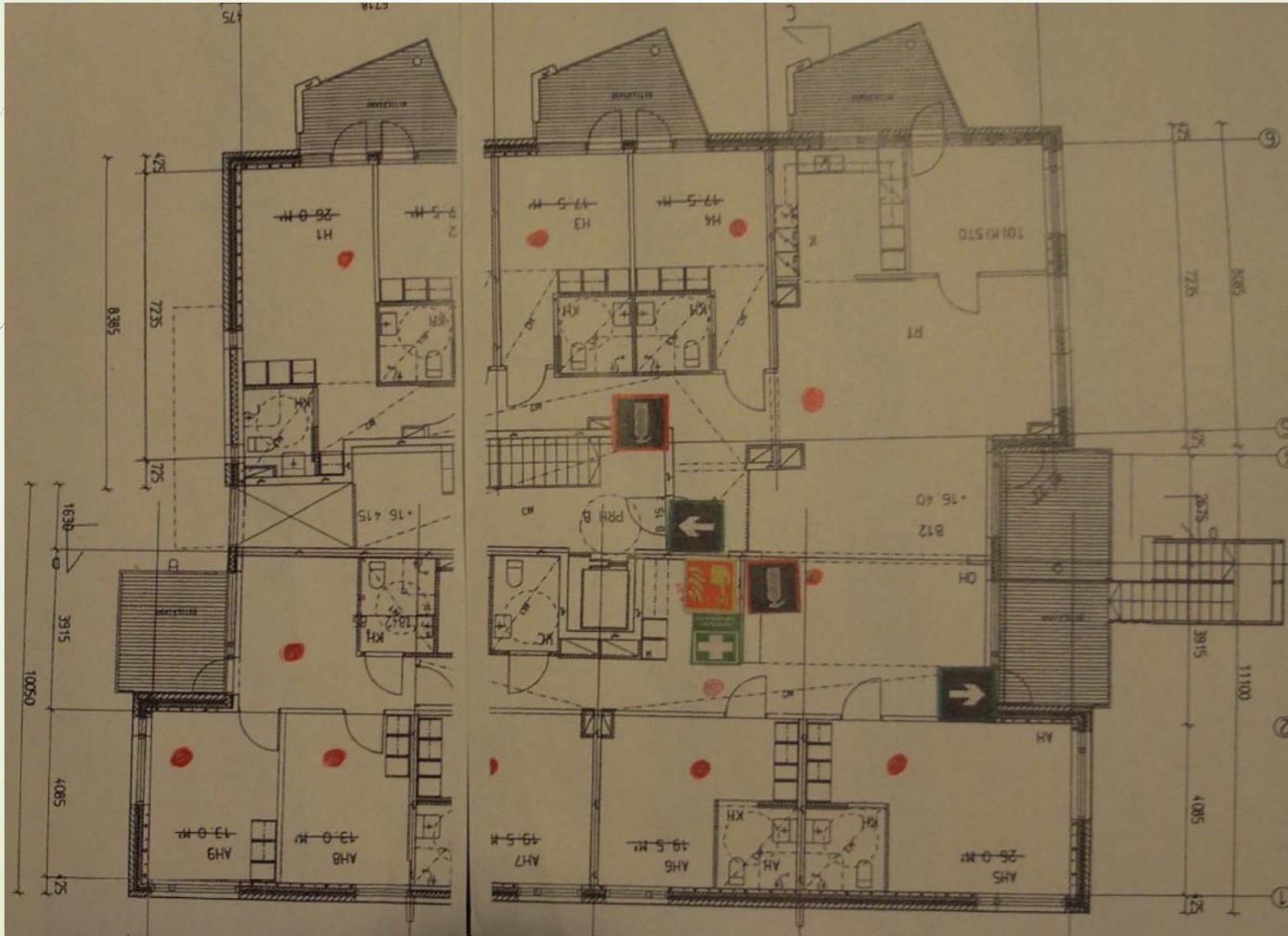
⑤ ラスティランカッリオGH



【用途・建物概要】

2000年に建設されたヘルシンキ市営住宅の1・2階部分を利用したグループホーム。1階部分に螺旋階段とつながった管理部門（洗濯室・サウナ・スタッフ関係）と一般住宅1戸、2階にグループホーム、3階から8階が一般住宅の構成。

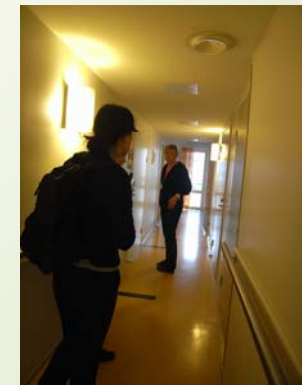
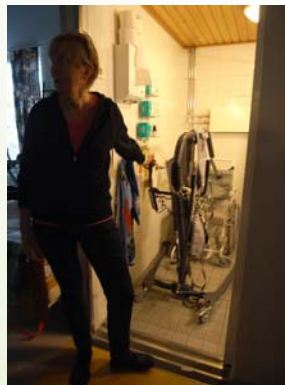
【ラスティランカッリオ 2階平面図】



【ラスティランカッリオGH 食堂・リビング】



【ラスティランカッリオGH 個室・水廻り・廊下】



フィンランドのグループホームづくりの特徴

- ・一般健常者との境界をなくそうとしている。
障害者が孤立・隔離しない環境づくりを行う。
- ・中度～軽度の障害者が入居。
- ・重度に対する対応
今回のヒアリング先に関しては、医療的重度対応について視察できた。
強度行動障害に対する建築的工夫は、明確には見受けられない。
- ・強度行動障害が生じるなどの重度対応は、既存の専門施設への入所で対応している模様（リンネコティ）。しかし、このタイプの施設もいずれGH化すること。どのような受け皿を残しておくのか？
→今後調査依頼。
- ・施設責任と利用者責任について
→今後調査依頼。